

中世の景観

内山を歩く

匝瑳探訪

—61—

内山地区は、市内北部に位置し、多古町に隣接しています。

広域農道から集落への道路が整備され交通の便が良くくなりましたが、集落に入りますと、台地に入り組んだ谷地の斜面を背にした家いえから古集落の雰囲気を感じられます。昭和50年以降の調査によって、この地域の鎌倉・南北朝・戦国時代のようなすがわづかながら知ることができました。1180年秋、内山館に住



昔からの自然に囲まれた内山地区の谷津田

む藤原親政ふじわらのちかまさ（千田親政ともいう）という武将が1000余名を引き連れ源頼朝に参軍した千葉氏と戦ったとされています。この内山館がどこにあったか正確には分かっていますが、地域には内山砦、内山中城跡、内山城跡などの史跡が確認されていて、多くの兵士を動員できる武將の存在があったとしてもうなずけるような気がします。

1420年以降、市域では真言宗寺院が建て始められたとされています。それ以前に内山には「真乘院幸福寺」という寺があって、この道場で学んだ僧侶の活動によっていくつかの寺が開かれたため、旭市内の寺院にも「内山から移転した」と伝承するものがあります。この真乘院跡も正確には分かっています。しかし、平成6年に妙広寺境内で発見された板碑いたび（板石の供養塔）に、1349年と1368年の年号があったことで、文書記録と合わせ考えると、真乘院が1350年ごろから

1435年ごろまで妙広寺周辺に存在したと考えても間違いないでしょう。現在、中央地区見徳寺境内にある1430年と刻まれた「弘法石」なども「内山から移転した」とする伝承を裏付けるものといえます。

こうした宗教活動を援助した者として内山氏という土豪どこう（土地の小豪族）が考えられます。内山氏は利根川沿岸の2つの津（港をいう）の支配権をにぎり、1363年には香取神宮へ押しかけるなどの乱暴が鎌倉幕府に報告されるほどでした。戦いに明けくれた内山氏が、一方では来世への往生を願ったのでしょうか。現在、内山地区には妙広寺、妙典寺の2か寺の日蓮宗寺院があります。妙広寺は1439年に開かれたことが記録からも明確で、支援したのは地域の農民集団とされています。1180年から260年間だけでもこうした歴史を経たことが記録されています。自然地形に沿って曲がりくねった谷地田んぼの景観は、現在でも中世の頃とさほど変化はないでしょう。

岡秘書課広報広聴班

☎ 73・0080